

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	平成30年度松阪市美術展覧会 第2回運営委員会
2. 開 催 日 時	平成30年11月5日(月) 午後3時から午後4時15分
3. 開 催 場 所	松阪市殿町1340番地1 松阪市教育委員会事務局2階 教育委員会室
4. 出席者氏名	(委員)山本静香、小林克巳、前村 実、前田祐英、梅川紀彦、 ◎福田光子、○垣本和美、山口友子、下平さなみ (◎委員長 ○委員長代理) (事務局) 別紙のとおり
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	無
7. 担 当	松阪市殿町1340番地1 担当者 : 浅原、山本 電 話 0598-53-4397 F A X 0598-22-0003 e-mail bun.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

- (1) 第59回松阪市美術展覧会について
- (2) 第60回松阪市美術展覧会について

議事録要約

別紙

平成 30 年度 松阪市美術展覧会第 2 回運営委員会議事録（要約）

開催日 平成 30 年 11 月 5 日（月）午後 3 時 00 分～午後 4 時 15 分

会場 松阪市教育委員会事務局 2 階 教育委員会室

出席者 山本静香（日本画）、小林克巳（洋画）、前村実（彫塑）、前田祐英（美術工芸）、
梅川紀彦（写真）、福田光子、垣本和美、山口友子、下平さなみ

文化課長：榊原

文化振興担当主幹：山本、文化振興主任：石田

1 開会

2 課長あいさつ

3 議題

(1) 第 59 回松阪市美術展覧会について

①松阪市美術展覧会 結果報告について

（事務局）以下報告

○出品数と入場者数

出品数	【絵画】 106 点（昨年比：12 点の減） 【写真】 72 点（昨年比：2 点の減） 《計》 286 点（昨年比：5 点の減）	【彫刻・工芸】 41 点（昨年比：2 点の減） 【書道】 67 点（昨年比：5 点の増）
入場者数	【第 1 部】 1,180 人（昨年比：497 人の減） 【計】 2,334 人（昨年比：378 人の減）	【第 2 部】 1,154 人（昨年比：119 人の増）

○高校生以下出品料無料の取り組みについて

出品数	【絵画】 0 点（昨年比：4 点の減） 【写真】 1 点（昨年比：1 点の増） 《計》 11 点（昨年比：5 点の減）	【彫刻・工芸】 1 点（昨年比：1 点の増） 【書道】 10 点（昨年比：3 点の増）
結果内訳	【絵画】 出品なし 【写真】 入選 1 名	【彫刻・工芸】 入選 1 名 【書道】 入選 10 名

（運営委員）

特になし。

(2) 第 60 回松阪市美術展覧会について

○開催日程および会場等について

（事務局）

第 1 部会期を 9 月 28 日（土）～10 月 5 日（土）、第 2 部会期を 10 月 19 日（土）～10 月 26 日（土）、会場は例年と同じく文化財センターで開催予定。

(運営委員)

- ・今年度は会期が土曜日～土曜日になっていたが、今後もこの形なのか。

(事務局)

日曜日まで会期を設け多くの来場者にお越しいただきたいところではあるが、市展を行う時期は秋ということもあり、市が文化財センターギャラリーを独占しているのではなく、できるだけ多くの市民にご利用いただきたい。そのため今回会期を短くしたが、今後もこの形を続けていけたらと考えている。

○ワークショップについて

(事務局)

文化財センターと合同でワークショップを2日間開催することを検討している。内容は「草木染め(野染め)」で、講師は京都在住の斎藤 洋(さいとう ひろし)先生をお招きする予定。京都の先生ではあるが、過去にも松阪市で野染めを行った経歴がある。市展が第60回記念ということもあり、今回のワークショップは「こども」部門と「大人」部門を設ける。

(運営委員)

- ・2日間同じ人が参加できるのか、またその時間だけで仕上がるのか。
- ・場合によっては応募が殺到することが考えられる。

(事務局)

こども向けの日はこども対象、大人向けの日は大人数対象。野染めを行った後、講師による野染めについての講座を開き、その間に染めたものを乾燥させる。講座を行っている間で染めたものが乾くので、その日のうちに布を切り分け、出来上がった布で何か作品を作成いただくようお願いする。毎年ワークショップは定員を超える応募があり、講師の先生のご協力を得て定員を増やしたりしており、応募の仕方についてはまた検討する。

○特別企画展について

(事務局)

松阪にゆかりのある人物の企画展ということで予定しているのが「曾我蕭白」の企画展。松阪出身ではないが、過去に松阪を訪れその時にお寺などに作品を残している。三重県立美術館からも何点か作品をお借りする。湿度管理等が必要なため、展示は文化財センターギャラリーではなくはにわ館で展示ケースに入れて展示する。

(運営委員)

- ・個人の方に曾我蕭白の作品を見せていただいたことがある。本物かどうかという判断は難しいところもあるが、せつかくの記念展であれば、今まであまり外に出ていない個人所有の作品を借りるのもいいのではないか。

(3) その他

□出品者資格について

(運営委員)

- ・今年、書道部門で一席を受賞された方について、夕刊三重の記事では「四日市市」在住ととれる記載があった。現在の出品者資格では「在住者、および通勤・通学者」となっているため、今回のようなケースがあり問合せがあった場合はすぐに返答ができない。出身者を追加すれば問題ないと思うがどうか。
- ・出品票の様式（住所、勤務先、学校名等）も見直す必要がある。

(事務局)

- ・市展は市の税金を使って行っていることもあり、松阪在住あるいは在勤・在学など何かしら松阪と関わりのある人を対象にしている。多気町については松阪の広域圏ということで地縁的な繋がりもある。ただ出身者となると範囲が広がりすぎるため、やはり市展への出品者は納税者であるなど松阪市と密接な関わりがある方としたい。

□学生作品の扱い、賞の追加について

(運営委員)

- ・展示の時も学生の表記がないため、どの作品が大人の作品で、どの作品が学生の作品なのかがわかりづらい。せっかく若い世代が出品してくれているのだから、来場者にも学生の作品であることが伝わるよう展示を工夫してほしい。
- ・学生も創作時間が限られており、日頃から物作りの時間を確保するのに苦労している。そのため学生部門を設けたところで出品数が少ない可能性もある。学生部門を設けるのではなく、学生対象の賞を作り、一般の人と競わせることでモチベーションを上げるというのも一つの方法。
- ・数年前に学生作品を多く出品していただいたことがあったが、選外になったりして学生のモチベーションが下がってしまった。結局出品しても何にもならないということを感じさせてしまうことのないように、学生作品であることがわかるようにしたり、学生部門を設けるのが難しいのであれば学生向けの賞を設けて、学生の出品意欲を高められるようにしたい。
- ・市展や市町村の展覧会というのは社会教育の成果や発表の場という風に考えてもよい。趣味で作品制作をしたり、独学で勉強したりしている人も発表の場を与えられている。市展にチャレンジしたい人はチャレンジしてもらって、ただし悪ければ容赦なく切る。そういったことが重要で、学生部門とくっってしまうのもあまりよくないかもしれない。

(事務局)

企業賞や来場者の投票による賞を増やすことは検討している。他にも学生含め出品者のモチベーションを上げられるような工夫を考えていきたい。

(運営委員)

- ・学生は参加者による賞の受賞を喜ぶ。先生といった存在ではなく、同じところで刺激をし合う学生同士の中で評価されるのが嬉しい。
- ・来場者等の投票による賞でも受賞した人は満足してしまい、前進しにくくなる可能性がある。こういった賞を設けるのはいいが、上手くしないと出品者の成長を止めてしまうことにもなりかねない。

□その他

- ・今年度の広告一枠一万円は安いのではないか？60回記念は積極的に広告を集めてほしい。
- ・搬出時間について、会期が15:00に終了し16:00から搬出開始となっているため、会場に来ていた出品者の人は1時間待つことになってしまう。効率良い作業方法を考えて時間の短縮を。

4. 閉会